

北広島町 四季物語



広島県 北広島町農山村体験推進協議会

〒731-1533 広島県山県郡北広島町有田1122

Tel050-5812-8080 FAX0826-72-5242

(事務局：北広島町役場商工観光課)

北広島町へのアクセス

広島駅から北広島町まで50分。広島への修学旅行では
欠かせない宮島・平和記念公園にも好アクセス！



鉄道

北広島町役場

広島道
中国道



50分

広島駅

小倉駅
50分

博多駅
65分

新鳥栖駅

佐賀駅

112分

熊本駅

120分

長崎駅

198分

鹿児島中央駅

180分

バス

北広島町役場

中国道



鹿野SA

めかりSA

165km 155分

吉志PA

吉志PA

福岡IC

290km 205分

佐賀大和IC

345km 230分

玉名SA

金立SA

熊本IC

393km 260分

長崎IC

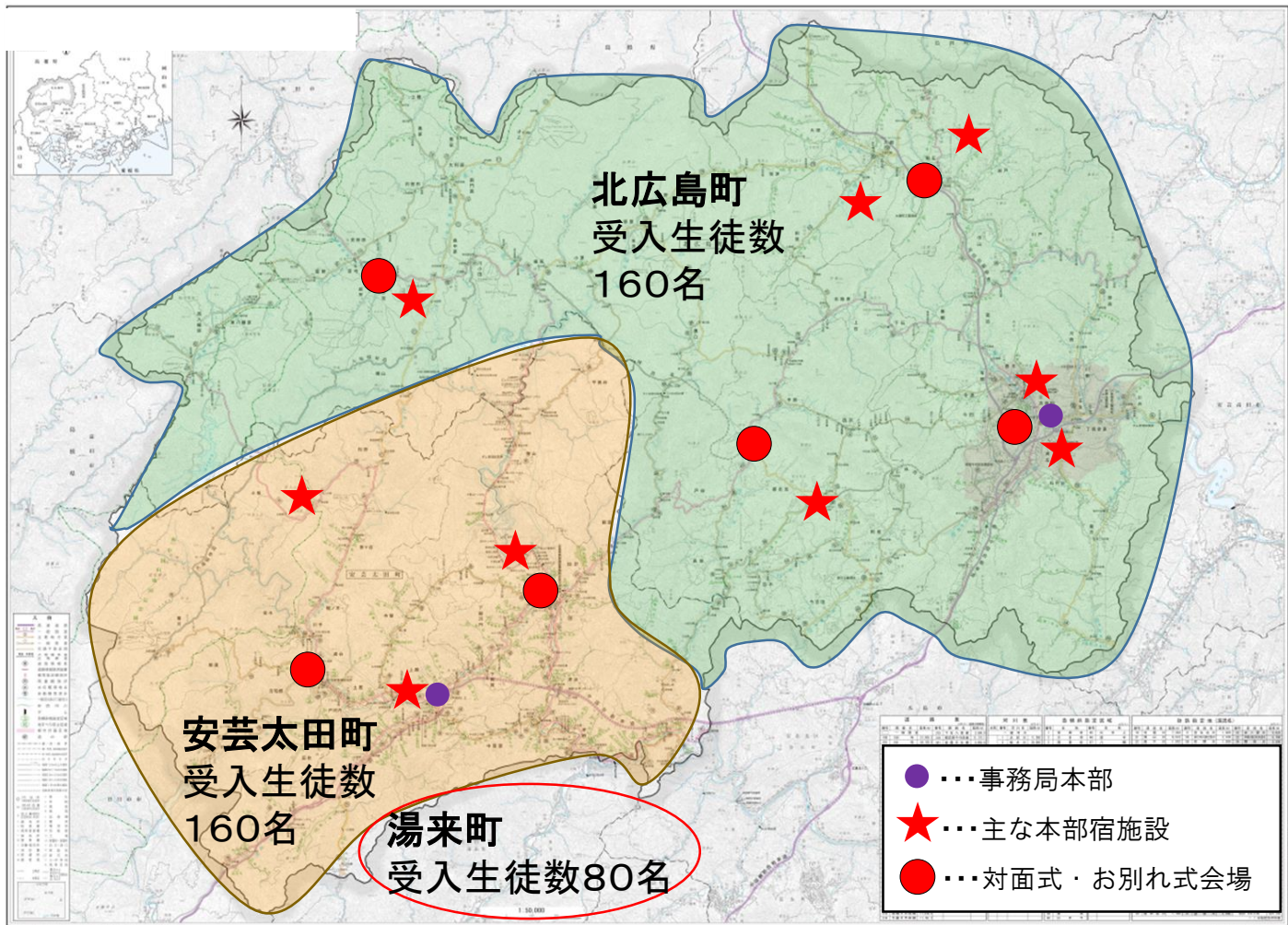
439km 230分

鹿児島IC

569km 370分

共同受入時の民泊分布

北広島町・安芸太田町・広島市佐伯区湯来町の3地域共同受入で
最大400名の受け入れが可能



3町合同受入で大型校に対応可能
近隣3町合同受入で最大400人
(10クラス)まで受け入れるこ
とが可能です。

事前の準備等のやり取りは、代表
の1町が行うため、事務手続きも
単独市町での受入とかわりません。

受入市町名	受入生徒数
北広島町	160名(4クラス)
安芸太田町	160名(4クラス)
湯来町	80名(2クラス)

北広島町単独受入可能人数 160名 受入登録家庭数 86軒※H30.12月現在

なぜ今、北広島町なのか

①広島を代表する農村文化・神楽のエネルギーを体験することができます。



北広島町で盛んな神楽は、元々秋の収穫を祝い秋祭りの際に神様に奉納する神事でしたが、その娯楽性の高さから人気が高く、今では広島県の観光コンテンツとして広島市の中心部で毎週開催されるほどの評価を得ています。

神楽どころ北広島では、実際に神楽を体験し、神楽を支えている地元住民から直接話を聞くことができます。過疎地で暮らす人間がどのような思いで神楽を守り、伝え、発展させてきたかを直接知る機会にはありません。

➡ 伝統芸能神楽体験・伝統見つけ直しプログラム

②被爆者の生の声を聴くことができるタイムリミットが迫っています。北広島町では、クラスごと個別の被爆体験講話をおこなえます。



広島に原爆が投下された日から70年以上経ち、被爆者のみなさんも高齢化が進んでいます。

被爆者の生の声が聴けるのは今だけです。北広島町では、地元に住む被爆者と協力して、被爆者と生徒との距離を近くして対話ができる被爆体験講話を実施しています。

生徒数に応じた講師と会場をご用意しますので、身近に講師を感じて体験を聞くことができます。

➡ 被爆体験講話

③スキー体験・雪国体験で、地元では体験できないスポーツ経験や、異なる生活文化や自然と共生する態度を学べます。



北広島町は、2メートル積雪する地域もある豪雪地帯です。町内に5つのスキー場があり、ウィンタースポーツが体験できます。

他にもスノートレッキングや雪中キャベツ収穫体験など、雪国ならではの自然・文化を体験できます。

地元では体験できない豪雪地帯に暮らす人たちの生活や知恵を体感することができます。

➡ スキー体験・スノートレッキング・雪中キャベツ体験

伝統芸能 神楽体験

約70団体の神楽団を有する「広島神楽」の本場！
地域の方によって大切に伝承され、進化する伝統芸能を体験。



●概要

「広島神楽」とは、石見神楽を源流に汲み、独自の進化を遂げた神楽で、山間部を中心に盛んに行われています。特に北広島町は、神楽団の数が多く、その数は日本一とも言われます。記紀や能などを基にし、勧善懲悪のストーリー性に富んだ演目は見ごたえのある昔ながらの農村娯楽です。町内の高校の神楽部をはじめとする子ども神楽や、女性神楽団体などもあり、町をあげて伝承している伝統芸能です。衣装は豪華絢爛な金襴刺繍が施され90万円～400万円と高価で、重量も10kg超あります。



●期待される教育効果

普段地元の人しか入ることのできない神社で、神楽団の方のお話（演目説明や、神楽を舞う意味、普段の練習のことなど）を聞いた後、間近に神楽を鑑賞します。長い年月を経て、日々の中で様々な形で伝わってきた伝統芸能の良さに気づき、異文化に対する理解を育み、地域を支える人々の思いや願いを知ることが期待できます。また、自分たちの地域の伝統文化についても比較し、考えるきっかけになります。

神楽体験の流れ(90分)

19:15 民泊家庭の車で神社・集会所に集合

19:30 開始式・神楽団団長の話

19:45 神楽鑑賞(1演目30～40分)

20:15 神楽衣装試着・記念撮影

20:30 質問タイム・終了式

20:45 民泊家庭の車で帰宅

●体験最大人数

160名(40名×4会場)

●時期

通年

※12月～3月は開催できる地域が限られます。
※土曜・平日は夜の体験です。日曜は応相談。
※演目指定は相談に応じます。

被爆体験講話

町内在住の被爆者の方による被爆体験講話 クラスごとで車座になっての聴講が可能



●概要

北広島町は広島市に隣接しており、町内に約700名の被爆者の方が在住されています。
このプログラムでは、平和祈念公園等で行われる大人数での講話とは異なり、公民館や、役場施設を使いクラスごとで部屋を分かれて被爆者の方と非常に近い距離で車座になり聴講していただけます。
講話後には質疑応答の時間も設け、より身近に原爆の悲惨さを学習することができます。



事前・事後学習用の教材として北広島町被爆体験講話DVDをお渡しできます。

●期待される教育効果

ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解し、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度の育成が期待されます。

被爆者の方と非常に近い距離で聴講し、自由に質問できる時間も設けることで、より主体的に平和学習に取り組み、現在世界中で起きている戦争や現在の日本の平和について考えるきっかけになります。

また、前後での原爆資料館の見学などで、より一層平和学習が深まります。

被爆体験講話の流れ(1時間)

14:00 各クラスで講師紹介・開始式

14:10 講話

14:50 質疑応答

15:00 記念撮影・終了式

15:10 (対面式)

15:45 (各受入家庭へ)

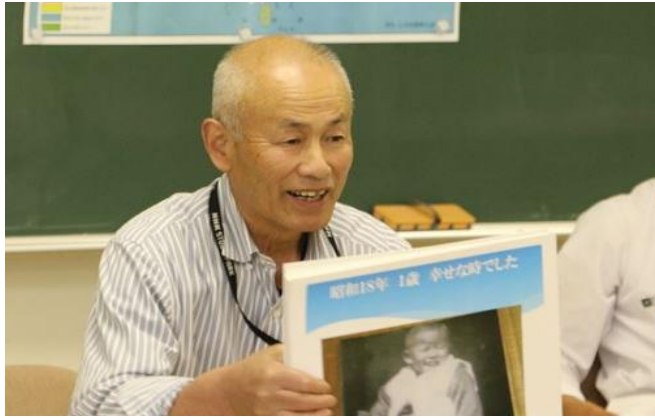
●体験最大人数

240名(40名/1部屋)

●時期

通年

被爆体験講師紹介



箕牧 智之さん

住所：北広島町吉木

生年月日：昭和17年3月15日（77歳）

原爆投下当時：東京大空襲を受けて、昭和20年5月に父の故郷である広島に疎開。8月6日は安佐郡飯室村（現・広島市安佐北区飯室）の自宅で遊んでいた。父は広島駅に勤めており駅の地下で被爆。日本被団協全国理事、広島県被団協理事長代行、北広島町原爆被害者の会会長。



山崎 勸さん

住所：北広島町荒神原

生年月日：昭和10年6月20日（83歳）

原爆投下当時：本川小学校（原爆ドーム西）に通学していたが、昭和18年に母親と兄弟3人で父の実家である北広島町（旧芸北町）に疎開した。原爆投下後の8月8日か9日に広島市内に入り、被爆した。現在、地元の学校で被爆体験を伝えている。



三浦 千代子さん

住所：北広島町宮迫

生年月日：昭和6年9月28日（87歳）



藤本 美恵子さん

住所：北広島町大朝

生年月日：大正14年11月10日（93歳）



金子 孝子さん

住所：北広島町大朝

生年月日：昭和5年1月5日（89歳）



岩田 雪美さん

住所：北広島町西八幡原

生年月日：昭和5年12月13日（87歳）



村竹 久司さん

住所：北広島町溝口

生年月日：昭和6年4月3日（88歳）

スキー体験

北広島町内には5つの個性的なスキー場があり、そのうちの3つは人工降雪機完備。積雪に関係なくスキー体験が可能



●概要

北広島町は西中国山地の1,000m級の山々に囲まれ冬には芸北地域を中心に2m近い積雪がある、県内有数の豪雪地帯です。

広島県で最も多い5つのスキー場があり、さらにそのうち3つのスキー場では人工降雪機を完備し、2015シーズンのような暖冬でも、積雪を気にすることなくスキーが楽しめます。

当然レンタルやインストラクターも充実しており、初心者でも安心してスキー教室を行うことができます。



●期待される教育効果

スキーは、他のスポーツと異なり学生のうちに体験しておかなければ、一生チャレンジしないスポーツであるといわれています。発地では体験できないスキーを体験することによって、様々な運動に親しむ態度が育成されます。また9割の生徒は、半日程度のレッスンでリフトに乗り滑走できるようになることから、成就感や自尊感情の獲得が期待されます。レッスンは、規律や安全な行動を第一に行動するので、集団行動の体得もなされます。

スキー体験の流れ（6時間）

9：00	開始式・インストラクター紹介・準備運動
9：30	緩斜面でのレッスン（こけ方・曲がり方など）
10：30	リフトの乗り方・プルークボーゲン等指導
12：00	昼食
13：00	レベルに応じた班を再編成しレッスン
15：00	整理運動・片付け・終了式

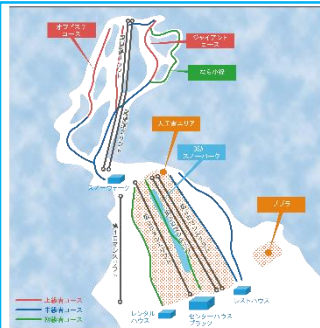
●体験最大人数

200名（100名×2会場）

●時期

12月～3月

スキー場紹介



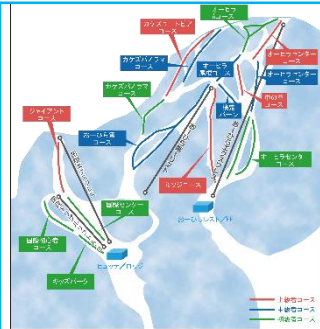
人工降雪機あり



【芸北高原大佐スキー場】

センターコース（初心者向け）が非常に広く、レストハウスからも行程管理がしやすいスキー場。

●オープン時期
12月中旬～3月中旬



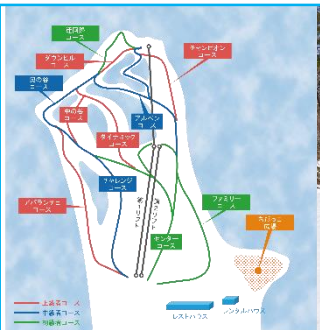
人工降雪機あり



【芸北国際スキー場】

西日本最大級の規模を誇るスキー場で、その最大滑走距離は3kmにもなる。6人乗り高速リフトも有り。

●オープン時期
12月初旬～3月中旬



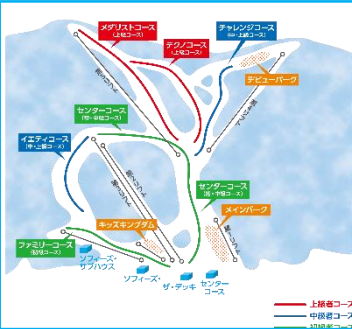
人工降雪機あり



【八幡ハイランド191リゾート】

芸北地域の中でも最も積雪量が多い地域に位置するスキー場。コースバリエーションも豊富。

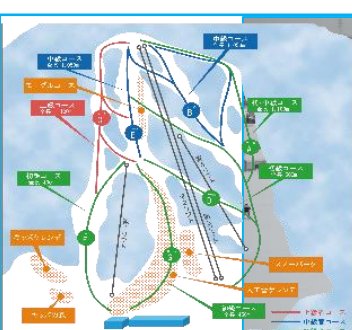
●オープン時期
12月中旬～3月上旬



【ユートピアサイト】

暖冬のシーズンでも豊富な雪量が魅力。施設全体がオシャレな雰囲気バラエティー豊かなコース展開が自慢。

●オープン時期
12月中旬～3月中旬



【雄鹿原高原スキー場】

駐車場のすぐ目の前にゲレンデが広がるスキー場。変化に富んだ滑り応えのあるコースが自慢。

●オープン時期
12月中旬～2月下旬

雪を活かした体験

白銀の景色の中、雪国ならではの知恵や工夫、
地域特性を活かした体験が可能。

●スポーツ雪合戦体験

雪上の格闘技と呼ばれるスポーツ雪合戦。
世界大会基準のルールのもと選手7名+監督1名を
1チームとしてゲームを行います。

戦略性とチームワークが勝利の鍵であり、男女
関係なく楽しむことができます。

スポーツ雪合戦体験の流れ（3時間）

9:00	開始式・審判紹介・準備運動・ルール説明
9:30	作戦タイム・チーム練習
10:00	試合・作戦タイム
12:00	終了式

●体験最大人数

100名

●時期

12月～3月

●スノートレッキング（アニマルトラッキング）

一見何もないように見える雪原を、雪国の知恵から
生まれた民具「かんじき」を使い、ガイドのもと
雪の中でたくましく生きる動植物を観察します。

雪国の生活の知恵を学び、自然と共生する態度を
身に付ける事ができます。

スノートレッキング体験の流れ（3時間）

9:00	開始式・ガイド紹介
9:30	班ごとに出発
11:30	班ごとに記録・まとめ
12:00	終了式

●体験最大人数

80名

●時期

12月～3月

●雪中キャベツ収穫体験

特に雪深い芸北地域では、冬の地域特性を活かし、
深雪に埋まった雪中キャベツが栽培されています。
厳しい環境の中で育つキャベツは、通常のキャベツ
よりも特段甘く、生でも食べると違いが分かります。
発地とは異なる生活文化と雪国の知恵を学べます。

雪中キャベツ体験の流れ（3時間）

9:00	開始式・ガイド紹介
9:30	班ごとに出発
11:30	班ごとに記録・まとめ
12:00	終了式

●体験最大人数

50名

●時期

12月～3月

家業体験プログラム(一例)



	農業	生活	自然
通年	●野菜づくり・収穫 ●家畜の世話 ●摘花・間引作業 ●池・水路清掃 ●草刈り	●かまどでの炊飯 ●ジャム・豆腐づくり ●バラ寿司・しば餅作り ●薪割り・焚き付け ●地域行事への参加	●湿原散策 ●わら・竹細工 ●林業体験 ●天体観測 ●登山
春	●田植え ●合鴨農法体験 ●麦踏み ●鳥獣対策	●タケノコ掘り ●山菜収穫・料理 ●花田植の練習 ●はぶ草茶づくり	●ホタル鑑賞 ●溪流釣り ●花めぐり ●樹木管理
秋	●稲刈り ●リンゴ作業 ●野菜収穫 ●堆肥づくり	●みそ・蒟蒻づくり ●小豆叩き ●神楽の練習 ●焼き芋づくり	●紅葉狩り ●きのこ狩り ●昆虫採集 ●栗拾い
冬	●雪おろし ●雪室管理 ●越冬野菜の防寒対策 ●野菜収穫	●雪かき ●漬物づくり ●枝打ち・森林管理 ●餅つき	●かまくら作り ●クロスカントリー ●かんじきづくり ●しめ縄づくり

本部宿舎の紹介

芸北オークガーデン

北広島町細見145-104 TEL0826-35-1230



夕食



露天風呂

温泉

天然温泉・露天風呂完備
中国山地の自然を感じながらリフレッシュできます



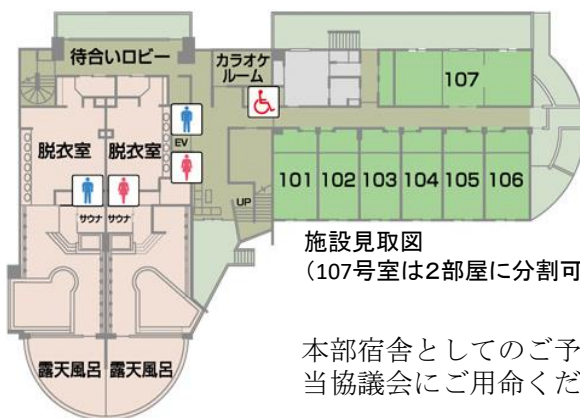
部屋

定員

客室8室
定員数32名

立地

民宿・民泊が多い芸北地域の中心にあり芸北地域内家庭は15分圏内
(北広島町内で最も遠い家庭は40分)



本部宿舎としてのご予約は
当協議会にご用命ください

本部宿舎の紹介

どんぐり荘 北広島町都志見12609 TEL0826-84-1340



温泉

豊平地域のシンボルである龍頭山を眺めながらゆっくりと入浴できます。



定員

和室4名定員
5部屋
和室3名定員
1部屋
洋ツイン2名定員
1部屋

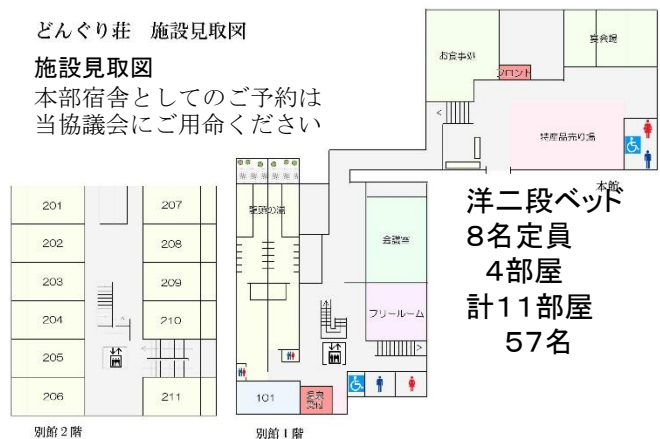
立地

北広島町のほぼ中心の道の駅豊平どんぐり村内に立地しています。
(北広島町内で最も遠い家庭は40分)

どんぐり荘 施設見取図

施設見取図

本部宿舎としてのご予約は
当協議会にご用命ください



新学習指導要領改訂に対応して 「主体的・対話的で深い学び」のために

新学習指導要領の改訂で従来からの「生きる力を育む」に加えて「主体的・対話的で深い学び」の視点から特別教育活動、とりわけ修学旅行等で、その実現に向けての期待が高まります。主体的に事前、事後学習を行うことに加え、現場での対話的な体験学習により狙いの深い学びとなります。旅行先での学習のテーマは地域事情に合致したものでなくてはなりません。地域の魅力と課題を示すことにより主体的なテーマの選択が可能となります。

魅力

①水がきれいでおいしい

軟水県広島の中でもトップクラスの超軟水。
臥竜山「雪霊水」は硬度8！水が美味しいとなんでも美味しい！

②神楽でつながる地域力

神楽団数(おそらく)日本一の北広島町では神楽が地域コミュニティの核を作る。
神楽は町民の誇りであり、共通の話題であり、若者が集う場になっている！

③山陰山陽の要衝で文化的

周辺には3つの世界遺産と2つの世界無形文化遺産！
原爆ドーム・厳島神社・石見銀山・石州半紙は北広島町と大きな関連が！

課題

①里山の管理が行き届かない

自宅の裏山の管理が行き届かず、生物多様性は失われ、人間と動物の生活境界があいまいに。獣害も深刻な状況に。

②伝統芸能の後継者不足

少子高齢化により、神楽団や田楽団の後継者不足が進んでいる。
300年受け継いできた演目も、田植え歌も継承することが難しくなっている。

③雪かき・草刈の人手不足

空き家の増加、地域集落の人口減少により、かつて集落で行っていた河川の草刈も困難。冬には独居老人の雪かき作業も間に合っていない。

伝統見つめなおしプログラム

教育目標

- 「広島神楽」の学習を通じて、地域の伝統芸能・祭りを見つめなおし、伝承してきた人の思いや地域社会での役割を学ぶ
- 自分とは異なる文化や歴史に敬意を払い、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

ねらい

- 米作りと密接な関係がある神楽を学ぶことで、継承されてきた伝統の意味に気付く
- 様々な立場から出る多様な意見を整理し、グループで共有し議論してまとめる力が付く
- 共通の話題「神楽」を通じて、民泊家庭や地域の方との交流がより深まる
- 旅行先で学んだことを生かし、自分たちの地域の伝統に引き寄せて考えることができる

事前学習

- ①神楽動画の鑑賞・感想を持つ(資料:神楽DVD提供)
- ②神楽とは何か?どんな意味があるのか?を調べる(資料:「中国地方神楽の魅力」NHK「KAGURA」提供)
- ③神楽伝承の取り組みや問題点について調べ、資料を読み解く(資料:「北広島町神楽振興計画」提供)
- ④北広島町の人たちにとって神楽にはどんな意味があるのか?グループごとに仮説を立てる

展開



※写真はイメージです

講師ごとに分かれてインタビュー



近所の神社での神楽鑑賞



現役神楽団員へのインタビュー

体験の流れ2泊3日(例)

1日目	13:45	対面式会場に到着
	14:00	様々な視点を持つ講師ごとに、スペースを区切り自己紹介・自分の思いを話し、生徒からインタビューを行う (例)①若手舞子②ベテラン団員③団員OB④神楽面師・衣装屋⑤商工観光課職員⑥教育委員会職員 ⑦神楽大会主催者⑧神楽ファン⑨中高神楽部員⑩神楽団のない地域の方⑪NPO など ※生徒はグループごとに誰の話聞くか計画を立て、役割分担を行っておく
	15:00	対面式・民泊家庭へ分かれる
2日目	民泊中	民泊家庭の方、近所の方に神楽について調べたいことを生活体験の中で質問する
	19:15	民泊家庭の車で近所の神社・集会所に集合
	19:30	開始式・神楽団団長の話
	19:45	神楽鑑賞(1演目30~40分)
	20:15	神楽衣装試着・バックステージツアー・記念撮影
	20:30	現役神楽団員へのインタビュー・神楽鑑賞証明書授与・終了式
	20:45	民泊家庭の車で帰宅

●体験人数

240名(神楽鑑賞は40名×6会場)

●時間・時期

通年体験可能(※12月~3月は開催できる地域に限られます ※神楽鑑賞は夜の体験になります。)

事後学習

- ⑤それぞれの知識をグループに持ち帰り、様々な視点を含んだうえで、「北広島町民にとっての神楽」の姿を捉え発表を行う
- ⑥上記の成果を踏まえて、広島神楽との違いを比較しながら生徒たちの地域の伝統芸能・祭りについて調査する

せどやま再生プログラム

概要

- せどやま(山と人里の境界線にある山林)の現状と課題を知り、地域の景観保全や環境保全(生物多様性の保全)を実現するための方策を生徒自身が考えることでせどやまの役割、過疎の町の現状を知ることができる。
- せどやまを再生させようと地域通貨を使った環境保全活動(芸北せどやま再生事業)が行われているので、その活動を通じて、環境保全の大切さを知ることができるプログラム。

ねらい

- せどやまの荒廃により人里にどんな影響があるのかを知り、環境保全の大切さに気付く
- 様々な立場から出る多様な意見を整理し、グループで共有し議論してまとめる力が付く
- 共通の話題「せどやま」を通じて、民泊家庭や地域の方との交流がより深まる
- 旅行先で学んだことを生かし、自分たちの地域の環境に引き寄せて考えることができる

事前学習

- ①地元の自然環境保全運動である芸北せどやま再生事業の資料により過疎の町の里山の状況を知る
- ②その他の自然環境保全活動について独自に調べる
- ③重視する点を決め、どのような聞き取りを行うかグループで話し合う。

展開



※写真はイメージです

講師ごとに分かれてインタビュー



せどやま事業の様子

体験の流れ(例)

13:00	会場に到着
13:10	せどやま事業の概要説明
14:20	講師ごとに分かれてグループインタビュー 講師例①せどやま事業関係者②林業関係者③農家④木質バイオマス活用事業者⑤猟師
15:30	振り返り(グループワーク)・発表・礼状贈呈
16:30	対面式会場へ移動

●体験人数

160名

●時期

通年体験可能

事後学習

- 調査結果を持ち帰り、改めて自分の住んでいる地域の環境保全について考える。